

さ ろ ま べ つ が わ
佐呂間別川水系河川整備基本方針

平成15年12月

北 海 道

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域の概要

佐呂間別川^{さろまべつがわ}は、その源を留辺蘂町^{るべしべ}豊金（標高554m）に発し、丸山、端穂を経て佐呂間町字栄、若佐を流下し佐呂間町市街地に達したのち、仁倉川^{にくらがわ}等の支川を合流し、知来^{ちらい}、仁倉を経てサロマ湖に流入し、芭露川^{はろうがわ}等の支川を合流しながらオホーツク海に注ぐ、流域面積870.4km²、幹川の流路延長90.9kmにおよぶ道内最大の二級河川である。

河川の名前は、一説によると、アイヌ語のサル・オマ・ペツに由来し、「葎原・にある・川」の意と言われている。

流域は、佐呂間町^{さろまべつ}、湧別町及び留辺蘂町の3町にまたがり、その土地利用状況は約45%が山林で、中流部の平地には農地が広がり、市街地は中下流部の低平地に集中している。

また、流域の下流に位置するサロマ湖は面積152km²で道内最大の湖であり、周辺には原生花園が広がり、昭和33年に網走国定公園に指定されている。

(2) 治水の現況

佐呂間別川水系の治水としては、佐呂間別川においては昭和38年から昭和48年にかけて佐呂間市街地から若佐市街地の区間を河道拡幅による河川改修が行われていたが、昭和46年10月に佐呂間市街地、知来地区などの床下浸水400戸、床上浸水245戸にもおよぶ大洪水を契機に計画規模を見直し、昭和49年よりサロマ湖合流点からの河川改修に着手している。最近では平成10年9月に知来地区、西富地区などで浸水面積334ha、床下浸水7戸の浸水被害を受けている。

また、芭露川においても、昭和35年から昭和47年にかけて芭露市街地部で、河道拡幅による河川改修が行われていたが、平成4年9月の床下浸水27戸、床上浸水16戸の冠水被害をもたらした洪水を契機として、平成9年よりサロマ湖合流点からの河川改修に着手している。最近では平成10年9月にも家屋、農地に多大な浸水被害が発生している。

サロマ湖においては、水位がオホーツク海の潮位と連動し、流入河川からの影響をほとんど受けないことから、サロマ湖周辺地域では過去においても浸水被害は受けていない。

(3) 河川利用の現況

佐呂間別川の流況は、昭和62年～平成9年の観測によると、永代橋地点において最低濁水流量は約0.38m³/sとなっており、過去に濁水被害が生じた事例はない。

水利用としては、農業用水として約640haの耕地のかんがいに利用されているほか、佐呂間町の水道用水及び雑用水として利用されている。

河川空間の利用については、サロマ湖畔でサロマ湖100kmウルトラマラソン、オホーツクサイクリング等の各種イベントが行われ、冬期には結氷したサロマ湖がパラセーリングやスノーモービルコースなどに利用されている。また、サロマ湖ではホタテ・牡蠣の養殖が行われ、支川仁倉川合流点下流の佐呂間別川及び支川ポン川合流点下流の芭露川は、ワカサギ・チカ・キュウリウオ・シラウオの内水面漁業権が設定されており重要な水産資源となっている。

(4) 流域の自然環境

佐呂間別川流域の気象は流域がオホーツク海に面しており、夏の平均気温が約17℃と冷涼で、年平均降水量は約800mmと道内でも比較的少ない地域である。

流域の地質は、大きく2つに区分され、佐呂間別川に沿う平地とその両側に発達する山地とに分かれる。平地を成す沖積層は狭く、幅500m～1000mで、右岸側では山稜部までの崖錐体積物による丘陵地形と合わせて、農・牧地として利用されている。山地は中世期、ジュラ紀の古い地層によって形成されている。

佐呂間別川のオンネルベシベ川合流点より上流部は山林が迫る狭い農地の中を比較的急勾配で流下し、河岸には所々に護岸が整備されているが、カモガヤやヤナギの低木などが水面を覆うように繁茂し、連続して形成された瀬と淵では、ヤマメやウグイなどが見られる。また、オンネルベシベ川を合流し、栄、若佐などの集落や佐呂間町の市街地が位置する中流部は、過去の改修により断続的に堤防等が整備されているが、河道はゆるやかに蛇行し、河床には州が形成され、瀬や淵も見られ、ウグイやエゾウグイなどが生息しており、これらを捕食するカワセミなども見られる。また、水際までヤナギなどが繁茂しており、これらの根などが入り込んでいる水中部では、ウグイの幼魚やトミヨなどが生息している。また、カラフトマスの遡上も確認されている。佐呂間町市街地から下流部は、知来川合流後より勾配が緩やかになり、仁倉川合流点下流の感潮区間は特に緩やかな流れとなっている。下流部の河床は瀬と淵が交互に並び中州も形成され、護岸が整備されている箇所もあるが、河岸にはヨシなどが繁茂しており、その茎や根、砂礫底はワカサギなどの産卵場となっている。

芭露川は佐呂間別川と同様に狭い農地の中を流れ、過去の改修により護岸や堤防が整備されているが、河岸にはヤナギなどの河畔林が連続して形成されており、その根の入り込んだ水中部ではトミヨなどが見られ、瀬や淵では、ウグイやエゾウグイなどが生息している。また、浅瀬には、これらを捕食するアオサギが姿を見せ、河岸に広がる草地ではキタキツネやエゾユキウサギなどが見られる。春には産卵場となっている砂礫底を求め、キュウリウオが群れをなして遡上している。国道より下流の右岸にはヤチダモやハンノキが良好な河畔林を形成しており、オジロワシ、コゲラなどが見られ、サロマ湖合流部付近のアッケシソウなどが繁茂する草地ではオオジシギの姿も見られる。また、下流の流れのゆるやかな砂泥底では身を潜めるようにヌマガレイ、ウキゴリが生息している。

「サロマンブルー」と呼ばれる独特の青い色をたたえるサロマ湖は、北海道で最大の汽水湖であり、湖周辺はワッカ原生花園など、多くの原生花園があり、秋に大地を真っ赤に染めるアッケシソウをはじめ、春から秋にかけてハマナス、アヤマメなど約300種類の花ばながまるで美しさを競い合うように咲き乱れる。湖東南に突き出したキムネアップ岬はアッケシソウ群落などの原生花園が広がっており、佐呂間町有数のキャンプ場として、多くの人々が大自然の中のキャンプを楽しんでいる。湖は流氷が押し寄せる地球上の南端として知られるオホーツク海に面しており、流氷によって大量のプランクトンが運ばれることもあり、ニシン、シラウオ、サヨリ、カレイなど多く種の魚類が生息し、ホタテ、牡蠣などの養殖も行われるなど、豊富な水産資源に恵まれている。また、春から秋にかけては、豊富な小魚などを求めてアオサギが湖岸に姿を見せる。

佐呂間別川の豊かな流れによって形成された瀬や淵では、カラフトマスの産卵床やトミヨなどの生息空間が形成され、水質は、下流部の佐呂間大橋水質基準点における(H2～H11の平均値)BOD75%値は1.8mg/lと環境基準A類型の環境基準を満足している。上流部の敷島橋水質基準点においては1.1mg/lとAA類型の環境基準をやや満足できていない状況であるが、H8の2.0mg/lをピークに減少傾向にあり、H11には、0.5mg/lと環境基準を満足する値となっている。支川の芭露川の水質は平成9年度の調査によると、芭露橋地点

においてBOD値1.5mg/lであり、特に公共用水域の類型指定はされていないが、環境基準A類型相当を満足しており、良好な水質となっている。また、サロマ湖の水質は、湖内の水質基準点における（H2～H11の平均値）COD平均値が1.8mg/lとなっている。

（５）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害の発生の状況、治水事業の経緯、河川の利用状況並びに河川環境を考慮するとともに、既存の利水施設等の機能の維持に十分配慮して水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のとおりとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、佐呂間別川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川とのバランスを図りつつ、堤防の新設や河道の掘削などにより河積を増大させ、計画規模の降雨による洪水の安全な流下を図り、佐呂間町・湧別町・留辺蘂町の沿川地域を防御するものとする。

整備途中段階における施設能力以上の洪水や計画規模を上回るような洪水に対しては、水防管理者等の関係機関に対し、河川情報等の伝達体制整備やハザードマップ作成の支援等を行い、被害の軽減を図る。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、周辺地域の農業用水や佐呂間町の水道用水としての利用状況や渇水時における流況を踏まえ、河川情報の提供など関係機関と協力して、適正な水利用が図られるよう努めるものとし、また、魚類の生息状況などに配慮し、水量・水質の把握を継続して、現況の流況の維持に努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、佐呂間別川は豊かな流れによって形成されるカラフトマス、ワカサギ、キュウリウオ等の産卵床やヤマメやウグイなどの生息が見られる瀬・淵や複雑に入り組んだ根がウグイの稚魚、トミヨ等の格好の生息場となっている水際の河畔林、サロマ湖周辺の干潟やアッケシソウなどが繁茂する塩湿地に広がる原生花園、芭露川合流部のオジロワシの営巣地となっている湖畔の自然林など、良好な動植物の生息・生育環境になっていることから、適切な保全措置を講じるものとする。また、サロマ湖100kmウルトラマラソン、オホーツクサイクリングなど各種イベントの河川空間利用の現状を踏まえ、関係機関と協力しながら、水質及び景観等に配慮することにより、地域住民と河川との豊かなふれあいの場の確保を図るものとする。

河川の維持管理については、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の保全と整備等、総合的な観点から、適切な実施に努めるものとする。また、河畔林については、治水上及び環境上の機能や影響を考慮したうえで、適正な管理を行うものとする。また、水文調査を継続して行い、降雨と流出量の関係の把握に努め、水防活動等適切な河川管理を行うものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

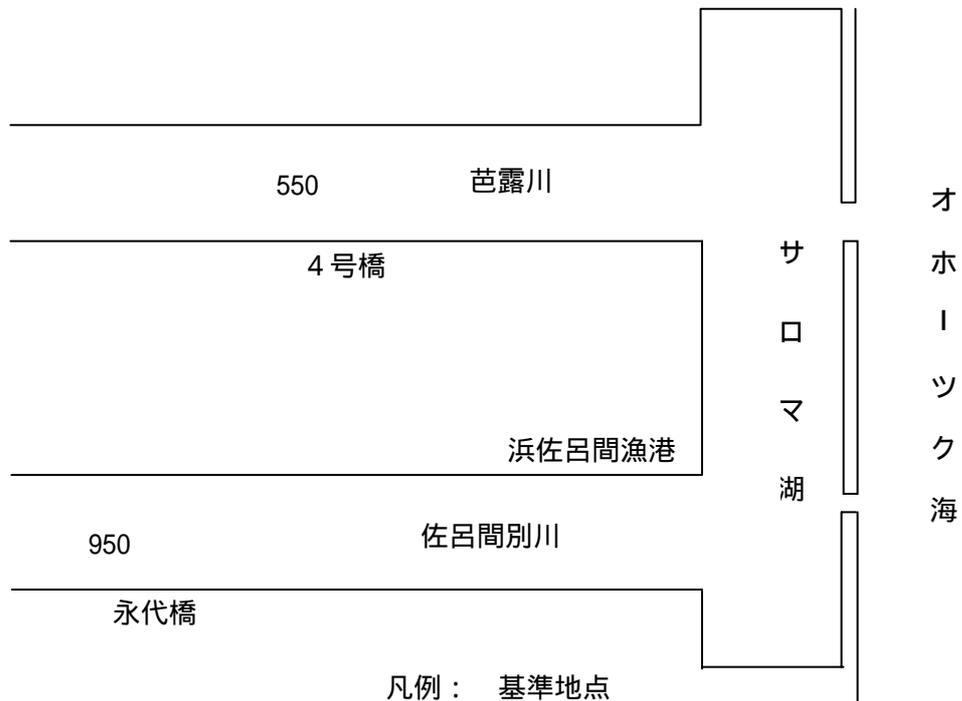
基本高水のピーク流量は、平成10年9月の既往洪水を考慮して、永代橋基準地点において $950\text{m}^3/\text{s}$ とする。また、支川芭露川については、4号橋地点において $550\text{m}^3/\text{s}$ とする。

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位： m^3/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
佐呂間別川	永代橋	950		950
芭露川	4号橋	550		550

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

佐呂間別川本川における計画高水流量は、永代橋地点において $950\text{m}^3/\text{s}$ とする。支川の芭露川については、4号橋地点において $550\text{m}^3/\text{s}$ とする。



凡例： 基準地点
 主要な地点

計画高水流量配分図 (単位： m^3/s)

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)
サロマ湖	浜佐呂間漁港	15.0 ^{*1}	+ 0.70	
佐呂間別川	永代橋	16.8 ^{*2}	+ 28.52	100
芭露川	4号橋	2.4 ^{*2}	+ 4.91	80

T.P.: 東京湾中等潮位

*1: 第1湖口よりの直線距離

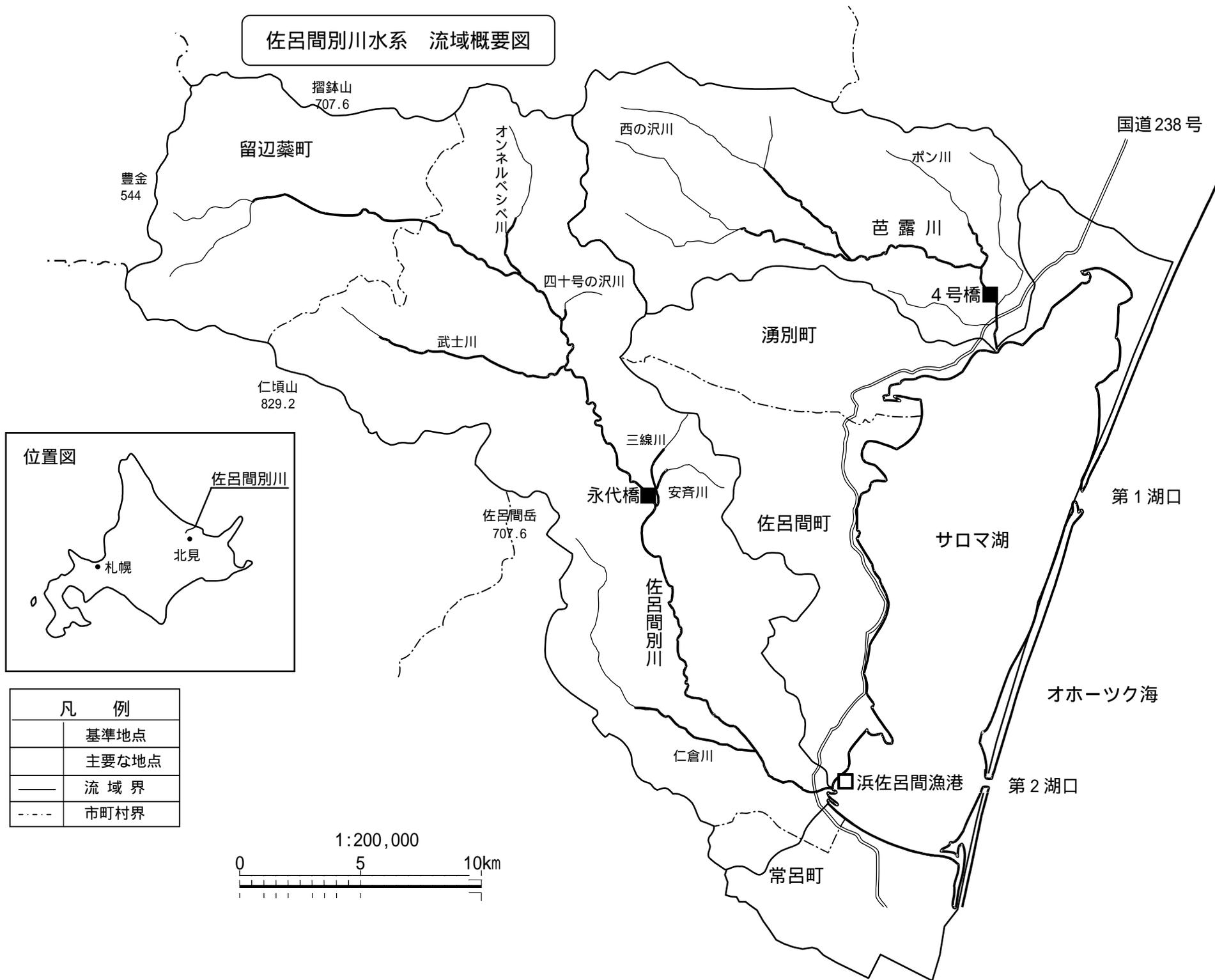
*2: サロマ湖からの距離

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

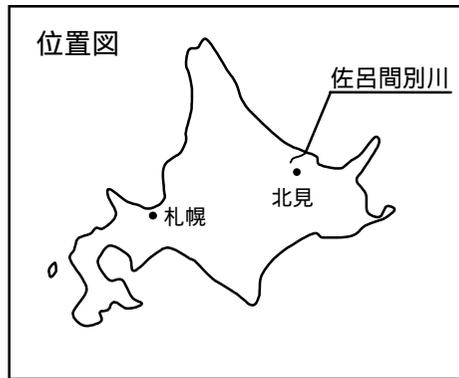
佐呂間別川の永代橋地点下流の利水としては、農業用水として約0.32m³/sの許可水利がある。また、永代橋地点における過去14年間(昭和59年～平成9年)の平均湯水流量は約0.56m³/s、平均低水流量は約1.00m³/sである。

佐呂間別川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の調査を引き続き行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮して定めるものとする。

佐呂間別川水系 流域概要図



位置図



凡 例	
●	基準地点
●	主要な地点
—	流域界
- - -	市町村界

